

変更前	変更後	備考
<p>社団法人 日本ネットワークインフォメーションセンター 公開：2000年11月2日 改訂：2002年2月1日</p> <p>株式会社日本レジストリサービス 改訂：2003年3月10日 改訂：2003年7月2日 改訂：2004年8月17日 改訂：2005年8月30日 改訂：2005年12月5日 改訂：2010年8月12日 改訂：2010年11月16日 実施：2011年1月16日</p> <p>汎用 JP ドメイン名登録等に関する技術細則</p> <p>目次</p> <p>1. 登録可能な汎用 JP ドメイン名の文字種別と文字列 2. 汎用 JP ドメイン名の構成 3. 申請文字列の正規化 4. ネームサーバ設定における日本語ラベルのエンコーディング 5. 汎用 JP ドメイン名に設定可能な署名鍵の形式 6. 制限事項 6.1 ネームサーバホスト名における制限事項 6.2 電子メールアドレスにおける制限事項 6.3 URI における制限事項 6.4 署名鍵における制限事項 7. 予約ドメイン名 付録1 互換用文字 付録2 正規化における文字置換の方式 付録3 正規化における文字合成の方式 付録4 日本語文字一覧</p>	<p>社団法人 日本ネットワークインフォメーションセンター 公開：2000年11月2日 改訂：2002年2月1日</p> <p>株式会社日本レジストリサービス 改訂：2003年3月10日 改訂：2003年7月2日 改訂：2004年8月17日 改訂：2005年8月30日 改訂：2005年12月5日 改訂：2010年8月12日 改訂：2010年11月16日 改訂：2012年5月16日 実施：2011年1月16日 実施：2012年7月16日</p> <p>汎用 JP ドメイン名登録等に関する技術細則</p> <p>目次</p> <p>1. 登録可能な汎用 JP ドメイン名の文字種別と文字列 2. 汎用 JP ドメイン名の構成 3. 申請文字列の正規化 4. ネームサーバ設定における日本語ラベルのエンコーディング 5. 汎用 JP ドメイン名に設定可能な署名鍵の形式 6. 制限事項 6.1 ネームサーバホスト名における制限事項 6.2 電子メールアドレスにおける制限事項 6.3 URI における制限事項 6.4 署名鍵における制限事項 7. 予約ドメイン名 付録1 互換用文字 付録2 正規化における文字置換の方式 付録3 正規化における文字合成の方式 付録4 日本語文字一覧</p>	<p>改訂日の記載 実施日の記載</p>

変更前	変更後	備考
<p>付録5 ABNFによる汎用JPドメイン名の定義</p> <p>1. 登録可能な汎用JPドメイン名の文字種別と文字列</p> <p>汎用JPドメイン名における文字種別と文字列を以下に規定する。</p> <p>「ドメイン名」は、ラベルをピリオド(“.”)で区切って連結した文字列である。</p> <p>「ラベル」は、本技術細則により定められるASCIIラベルおよび日本語ラベルにより構成される。</p> <p>「ASCIIラベル」は、英字(“A”から“Z”)、数字(“0”から“9”)、ハイフン(“-”)からなる文字列である。ただし、ASCIIラベルの先頭と末尾の文字はハイフンであってはならない。ASCIIラベルの長さは、63文字以下でなければならない。ASCIIラベル中では、英字の大文字・小文字の区別はなく同じ文字とみなされる。</p> <p>「日本語ラベル」は、本技術細則により定められる日本語文字を1文字以上含む、日本語文字および英字(“A”から“Z”)、数字(“0”から“9”)、ハイフン(“-”)からなる文字列である。ただし、日本語ラベルの先頭と末尾の文字はハイフンであってはならない。日本語ラベルの長さは、15文字以下でなければならない。日本語ラベル中では、英字の大文字・小文字の区別はなく同じ文字とみなされる。</p> <p>「日本語文字」は、「JIS X 0208:1997 7ビット及び7ビットの2バイト情報交換用符号化漢字集合」(以下「JIS X 0208:1997」という)における符号表のうち、次にあげる文字により構成される。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)4区の文字(平仮名) (2)5区の文字(片仮名) (3)16区から84区の文字(漢字) (4)1区のうち、次にあげる文字(中点、仮名又は漢字に準じるもの) <p style="text-align: center;">区点 UCS 文字</p>	<p>付録5 ABNFによる汎用JPドメイン名の定義</p> <p>1. 登録可能な汎用JPドメイン名の文字種別と文字列</p> <p>汎用JPドメイン名における文字種別と文字列を以下に規定する。</p> <p>「ドメイン名」は、ラベルをピリオド(“.”)で区切って連結した文字列である。</p> <p>「ラベル」は、本技術細則により定められるASCIIラベルおよび日本語ラベルにより構成される。</p> <p>「ASCIIラベル」は、英字(“A”から“Z”)、数字(“0”から“9”)、ハイフン(“-”)からなる文字列である。ただし、ASCIIラベルの先頭と末尾の文字はハイフンであってはならない。ASCIIラベルの長さは、63文字以下でなければならない。ASCIIラベル中では、英字の大文字・小文字の区別はなく同じ文字とみなされる。</p> <p>「日本語ラベル」は、本技術細則により定められる日本語文字を1文字以上含む、日本語文字および英字(“A”から“Z”)、数字(“0”から“9”)、ハイフン(“-”)からなる文字列である。ただし、日本語ラベルの先頭と末尾の文字はハイフンであってはならない。日本語ラベルの長さは、15文字以下でなければならない。日本語ラベル中では、英字の大文字・小文字の区別はなく同じ文字とみなされる。</p> <p>「日本語文字」は、「JIS X 0208:1997 7ビット及び7ビットの2バイト情報交換用符号化漢字集合」(以下「JIS X 0208:1997」という)における符号表のうち、次にあげる文字により構成される。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)4区の文字(平仮名) (2)5区の文字(片仮名) (3)16区から84区の文字(漢字) (4)1区のうち、次にあげる文字(中点、仮名又は漢字に準じるもの) <p style="text-align: center;">区点 UCS 文字</p>	

変更前	変更後	備考
<pre> ----- 1-6 30FB ・ 1-19 30FD \ 1-20 30FE ㄨ 1-21 309D ㄣ 1-22 309E ㄤ 1-24 4EDD 全 1-25 3005 々 1-26 3006 ㄨ 1-27 3007 〇 1-28 30FC ー ----- </pre>	<pre> ----- 1-6 30FB ・ 1-19 30FD \ 1-20 30FE ㄨ 1-21 309D ㄣ 1-22 309E ㄤ 1-24 4EDD 全 1-25 3005 々 1-26 3006 ㄨ 1-27 3007 〇 1-28 30FC ー ----- </pre>	
<p>区点: JIS X 0208:1997 における区点番号。</p>	<p>区点: JIS X 0208:1997 における区点番号。</p>	
<p>UCS: The Unicode Standard, Version 3.2.0(以下「Unicode」という)の符号表における文字位置を示す番号。</p>	<p>UCS: The Unicode Standard, Version 3.2.0(以下「Unicode」という)の符号表における文字位置を示す番号。</p>	
<p>「区切り文字」は、次にあげる文字により構成される。ラベルには、区切り文字は含まれない。</p>	<p>「区切り文字」は、次にあげる文字により構成される。ラベルには、区切り文字は含まれない。</p>	
<p>(1) 「JIS X 0201:1997 7ビット及び8ビットの情報交換用符号化文字集合」(以下「JIS X 0201:1997」という)における区切り文字</p>	<p>(1) 「JIS X 0201:1997 7ビット及び8ビットの情報交換用符号化文字集合」(以下「JIS X 0201:1997」という)における区切り文字</p>	
<pre> 8ビット符号(16進数) UCS 図形記号 ----- 10/1(A1) FF61 。 ----- </pre>	<pre> 8ビット符号(16進数) UCS 図形記号 ----- 10/1(A1) FF61 。 ----- </pre>	
<p>8ビット符号: JIS X 0201:1997 の8ビット符号表における位置。</p>	<p>8ビット符号: JIS X 0201:1997 の8ビット符号表における位置。</p>	
<p>(2) JIS X 0208:1997 における区切り文字</p>	<p>(2) JIS X 0208:1997 における区切り文字</p>	
<pre> 区点 UCS 文字 ----- 1-3 3002 。 ----- </pre>	<pre> 区点 UCS 文字 ----- 1-3 3002 。 ----- </pre>	

変更前	変更後	備考
<p data-bbox="261 268 552 331">1-5 FFOE . -----</p> <p data-bbox="103 401 1160 520">ドメイン名を構成する最も右側のラベルを「トップレベルドメイン名」と呼び、以下左へ順に「第2レベルドメイン名」、「第3レベルドメイン名」、…と呼ぶ。</p> <p data-bbox="103 579 1160 699">「ネームサーバホスト名」は、ネームサーバ設定の際に指定されるドメインネームサーバ(以下「ネームサーバ」という)の名称である。ネームサーバホスト名は、3つ以上のラベルをピリオド(".")で区切って連結した文字列である。</p> <p data-bbox="103 758 492 789">2. 汎用 JP ドメイン名の構成</p> <p data-bbox="130 848 762 879">汎用 JP ドメイン名の構成は、次の通りである。</p> <p data-bbox="219 938 388 970"><ラベル>.JP</p> <p data-bbox="103 1029 1175 1148">「ASCII ドメイン名」は、汎用 JP ドメイン名のうち、<ラベル> が ASCII ラベルであるドメイン名である。ASCII ドメイン名の <ラベル> は、3文字以上でなければならない。</p> <p data-bbox="103 1207 1151 1327">「日本語ドメイン名」は、汎用 JP ドメイン名のうち、<ラベル> が日本語ラベルであるドメイン名である。日本語ドメイン名の <ラベル> は、1文字以上でなければならない。</p> <p data-bbox="103 1386 418 1417">3. 申請文字列の正規化</p> <p data-bbox="103 1476 1160 1596">「申請文字列」は、株式会社日本レジストリサービス(以下「当社」という)への登録申請の際に、ドメイン名およびネームサーバホスト名として指定される文字列である。</p> <p data-bbox="130 1654 1160 1734">申請文字列には本技術細則により定められる互換用文字を含んでよい(付録1「互換用文字」を参照)。</p> <p data-bbox="103 1793 1151 1871">「正規化」は、申請文字列によって構成された各文字を、後述の手順に従って変換することである。</p>	<p data-bbox="1510 268 1801 331">1-5 FFOE . -----</p> <p data-bbox="1350 401 2407 520">ドメイン名を構成する最も右側のラベルを「トップレベルドメイン名」と呼び、以下左へ順に「第2レベルドメイン名」、「第3レベルドメイン名」、…と呼ぶ。</p> <p data-bbox="1350 579 2407 699">「ネームサーバホスト名」は、ネームサーバ設定の際に指定されるドメインネームサーバ(以下「ネームサーバ」という)の名称である。ネームサーバホスト名は、3つ以上のラベルをピリオド(".")で区切って連結した文字列である。</p> <p data-bbox="1350 758 1739 789">2. 汎用 JP ドメイン名の構成</p> <p data-bbox="1377 848 2009 879">汎用 JP ドメイン名の構成は、次の通りである。</p> <p data-bbox="1466 938 1635 970"><ラベル>.JP</p> <p data-bbox="1350 1029 2421 1148">「ASCII ドメイン名」は、汎用 JP ドメイン名のうち、<ラベル> が ASCII ラベルであるドメイン名である。ASCII ドメイン名の <ラベル> は、3文字以上でなければならない。</p> <p data-bbox="1350 1207 2395 1327">「日本語ドメイン名」は、汎用 JP ドメイン名のうち、<ラベル> が日本語ラベルであるドメイン名である。日本語ドメイン名の <ラベル> は、1文字以上でなければならない。</p> <p data-bbox="1350 1386 1665 1417">3. 申請文字列の正規化</p> <p data-bbox="1350 1476 2407 1596">「申請文字列」は、株式会社日本レジストリサービス(以下「当社」という)への登録申請の際に、ドメイン名およびネームサーバホスト名として指定される文字列である。</p> <p data-bbox="1377 1654 2407 1734">申請文字列には本技術細則により定められる互換用文字を含んでよい(付録1「互換用文字」を参照)。</p> <p data-bbox="1350 1793 2395 1871">「正規化」は、申請文字列によって構成された各文字を、後述の手順に従って変換することである。</p>	

変更前	変更後	備考
<p>正規化は、ピリオド(".")または区切り文字で分割した文字列単位で行う。ラベルは正規化後の文字列である。ラベルの連結はピリオド(".")で行う。</p> <p>汎用 JP ドメイン名における正規化は、以下の手順により行う。</p> <p>(1) 付録 2「正規化における文字置換の方式」により定められる方式 (2) 付録 3「正規化における文字合成の方式」により定められる方式</p> <p>当社が登録するドメイン名およびネームサーバホスト名は、正規化後の文字列を使用する。正規化後の文字列に日本語文字が 1 文字も含まれないラベルは、ASCII ラベルとして取り扱う。</p> <p>4. ネームサーバ設定における日本語ラベルのエンコーディング</p> <p>ネームサーバ設定の際に、対象となるドメイン名およびネームサーバホスト名に日本語ラベルが含まれている場合、本技術細則「3. 申請文字列の正規化」に規定する方式により正規化を行う。その正規化した日本語ラベルを Unicode に変換し、RFC5891 で定義される以下の手順によりエンコーディングした文字列と置き換える。</p> <p>(1) RFC3492 で定義されるアルゴリズムによりエンコーディングを行う (2) RFC5890 で定義されるプレフィックスを前置する</p> <p>JIS X 0208:1997 から Unicode への変換の際の対応表として、付録 4「日本語文字一覧」により示される対応表を使用する。</p> <p>5. 汎用 JP ドメイン名に設定可能な署名鍵の形式</p> <p>「署名鍵」は、DNS のリソースレコードである DS レコードの RDATA 部である下記の (1) から (4) の 4 要素 (RFC4034 参照) の値を空白文字にて連結した文字列である。登録原簿には、その署名鍵の形式で記載する。</p> <p>(1) 鍵タグ 対応する DNSKEY レコードから生成した整数値</p>	<p>正規化は、ピリオド(".")または区切り文字で分割した文字列単位で行う。ラベルは正規化後の文字列である。ラベルの連結はピリオド(".")で行う。</p> <p>汎用 JP ドメイン名における正規化は、以下の手順により行う。</p> <p>(1) 付録 2「正規化における文字置換の方式」により定められる方式 (2) 付録 3「正規化における文字合成の方式」により定められる方式</p> <p>当社が登録するドメイン名およびネームサーバホスト名は、正規化後の文字列を使用する。正規化後の文字列に日本語文字が 1 文字も含まれないラベルは、ASCII ラベルとして取り扱う。</p> <p>4. ネームサーバ設定における日本語ラベルのエンコーディング</p> <p>ネームサーバ設定の際に、対象となるドメイン名およびネームサーバホスト名に日本語ラベルが含まれている場合、本技術細則「3. 申請文字列の正規化」に規定する方式により正規化を行う。その正規化した日本語ラベルを Unicode に変換し、RFC5891 で定義される以下の手順によりエンコーディングした文字列と置き換える。</p> <p>(1) RFC3492 で定義されるアルゴリズムによりエンコーディングを行う (2) RFC5890 で定義されるプレフィックスを前置する</p> <p>JIS X 0208:1997 から Unicode への変換の際の対応表として、付録 4「日本語文字一覧」により示される対応表を使用する。</p> <p>5. 汎用 JP ドメイン名に設定可能な署名鍵の形式</p> <p>「署名鍵」は、DNS のリソースレコードである DS レコードの RDATA 部である下記の (1) から (4) の 4 要素 (RFC4034 参照) の値を空白文字にて連結した文字列である。登録原簿には、その署名鍵の形式で記載する。</p> <p>(1) 鍵タグ 対応する DNSKEY レコードから生成した整数値</p>	

変更前	変更後	備考																																																												
<p>(2) アルゴリズム 対応する DNSKEY レコードのアルゴリズムを示す下記の整数値のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="261 394 816 772"> <thead> <tr> <th>整数値</th> <th>アルゴリズム</th> <th>参照 RFC</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>3</td><td>DSA</td><td>RFC4034</td></tr> <tr><td>5</td><td>RSASHA1</td><td>RFC4034</td></tr> <tr><td>6</td><td>DSA-NSEC3-SHA1</td><td>RFC5155</td></tr> <tr><td>7</td><td>RSASHA1-NSEC3-SHA1</td><td>RFC5155</td></tr> <tr><td>8</td><td>RSASHA256</td><td>RFC5702</td></tr> <tr><td>10</td><td>RSASHA512</td><td>RFC5702</td></tr> </tbody> </table> <p>(3) ダイジェストタイプ ダイジェストタイプを示す下記の整数値のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="261 982 816 1182"> <thead> <tr> <th>整数値</th> <th>ダイジェストタイプ</th> <th>参照 RFC</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>SHA-1</td><td>RFC4034</td></tr> <tr><td>2</td><td>SHA-256</td><td>RFC4509</td></tr> </tbody> </table> <p>(4) ダイジェスト 対応する DNSKEY レコードのメッセージダイジェストを 16 進数で表した文字列</p>	整数値	アルゴリズム	参照 RFC	3	DSA	RFC4034	5	RSASHA1	RFC4034	6	DSA-NSEC3-SHA1	RFC5155	7	RSASHA1-NSEC3-SHA1	RFC5155	8	RSASHA256	RFC5702	10	RSASHA512	RFC5702	整数値	ダイジェストタイプ	参照 RFC	1	SHA-1	RFC4034	2	SHA-256	RFC4509	<p>(2) アルゴリズム 対応する DNSKEY レコードのアルゴリズムを示す下記の整数値のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="1510 394 2065 772"> <thead> <tr> <th>整数値</th> <th>アルゴリズム</th> <th>参照 RFC</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>3</td><td>DSA</td><td>RFC4034</td></tr> <tr><td>5</td><td>RSASHA1</td><td>RFC4034</td></tr> <tr><td>6</td><td>DSA-NSEC3-SHA1</td><td>RFC5155</td></tr> <tr><td>7</td><td>RSASHA1-NSEC3-SHA1</td><td>RFC5155</td></tr> <tr><td>8</td><td>RSASHA256</td><td>RFC5702</td></tr> <tr><td>10</td><td>RSASHA512</td><td>RFC5702</td></tr> </tbody> </table> <p>(3) ダイジェストタイプ ダイジェストタイプを示す下記の整数値のいずれか</p> <table border="1" data-bbox="1510 982 2065 1182"> <thead> <tr> <th>整数値</th> <th>ダイジェストタイプ</th> <th>参照 RFC</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>SHA-1</td><td>RFC4034</td></tr> <tr><td>2</td><td>SHA-256</td><td>RFC4509</td></tr> </tbody> </table> <p>(4) ダイジェスト 対応する DNSKEY レコードのメッセージダイジェストを 16 進数で表した文字列</p>	整数値	アルゴリズム	参照 RFC	3	DSA	RFC4034	5	RSASHA1	RFC4034	6	DSA-NSEC3-SHA1	RFC5155	7	RSASHA1-NSEC3-SHA1	RFC5155	8	RSASHA256	RFC5702	10	RSASHA512	RFC5702	整数値	ダイジェストタイプ	参照 RFC	1	SHA-1	RFC4034	2	SHA-256	RFC4509	<p>改行位置の修正</p>
整数値	アルゴリズム	参照 RFC																																																												
3	DSA	RFC4034																																																												
5	RSASHA1	RFC4034																																																												
6	DSA-NSEC3-SHA1	RFC5155																																																												
7	RSASHA1-NSEC3-SHA1	RFC5155																																																												
8	RSASHA256	RFC5702																																																												
10	RSASHA512	RFC5702																																																												
整数値	ダイジェストタイプ	参照 RFC																																																												
1	SHA-1	RFC4034																																																												
2	SHA-256	RFC4509																																																												
整数値	アルゴリズム	参照 RFC																																																												
3	DSA	RFC4034																																																												
5	RSASHA1	RFC4034																																																												
6	DSA-NSEC3-SHA1	RFC5155																																																												
7	RSASHA1-NSEC3-SHA1	RFC5155																																																												
8	RSASHA256	RFC5702																																																												
10	RSASHA512	RFC5702																																																												
整数値	ダイジェストタイプ	参照 RFC																																																												
1	SHA-1	RFC4034																																																												
2	SHA-256	RFC4509																																																												
<p>6. 制限事項</p> <p>6.1 ネームサーバホスト名における制限事項</p> <p>ネームサーバホスト名のトップレベルドメイン名が“JP”の場合、そのネームサーバホスト名は、登録原簿に記載されている属性型（組織種別型）・地域型 JP ドメイン名もしくは汎用 JP ドメイン名に含まれるものでなければならない。</p> <p>当社は、この制限事項に反するネームサーバホスト名を登録原簿から抹消することができる。</p>	<p>6. 制限事項</p> <p>6.1 ネームサーバホスト名における制限事項</p> <p>ネームサーバホスト名のトップレベルドメイン名が“JP”の場合、そのネームサーバホスト名は、登録原簿に記載されている属性型（組織種別型）・地域型 JP ドメイン名、もしくは汎用 JP ドメイン名もしくは都道府県型 JP ドメイン名に含まれるものでなければならない。</p> <p>当社は、この制限事項に反するネームサーバホスト名を登録原簿から抹消することができる。</p>	<p>登録されていない JP ドメイン名を使用したネームサーバ設定削除の対象として都道府県型 JP ドメイン名のネームサーバホスト名を追加</p>																																																												

変更前	変更後	備考
<p>ネームサーバホスト名には、次にあげるラベルを含んではならない。</p> <p>(1) “*--” (“*”は ASCII ラベルに使用可能な任意の 1 文字) で始まるラベル</p> <p>6.2 電子メールアドレスにおける制限事項</p> <p>登録者または公開連絡窓口などの申請情報として登録される電子メールアドレスのドメイン名部分(電子メールアドレスにおける“@”の右側)には、次にあげるラベルを含んではならない。</p> <p>(1) “*--” (“*”は ASCII ラベルに使用可能な任意の 1 文字) で始まるラベル (2) 日本語ラベル</p> <p>6.3 URI における制限事項</p> <p>登録者または公開連絡窓口などの申請情報として登録される URI のホスト名部分には、次にあげるラベルを含んではならない。</p> <p>(1) “*--” (“*”は ASCII ラベルに使用可能な任意の 1 文字) で始まるラベル</p> <p>6.4 署名鍵における制限事項</p> <p>汎用 JP ドメイン名に設定された署名鍵がセキュリティやその他の問題を引き起こす可能性があるとして当社が判断した場合、当社は署名鍵を登録原簿から抹消することができる。</p> <p>7. 予約ドメイン名</p> <p>当社は、特定の汎用 JP ドメイン名を、すべての組織が登録できないドメイン名として、ないしは特定の組織を除いて登録できないドメイン名として指定する場合があります。これを予約ドメイン名と呼ぶ。この指定および指定解除、その他の詳細は指定の都度定める。</p>	<p>ネームサーバホスト名には、次にあげるラベルを含んではならない。</p> <p>(1) “*--” (“*”は ASCII ラベルに使用可能な任意の 1 文字) で始まるラベル</p> <p>6.2 電子メールアドレスにおける制限事項</p> <p>登録者または公開連絡窓口などの申請情報として登録される電子メールアドレスのドメイン名部分(電子メールアドレスにおける“@”の右側)には、次にあげるラベルを含んではならない。</p> <p>(1) “*--” (“*”は ASCII ラベルに使用可能な任意の 1 文字) で始まるラベル (2) 日本語ラベル</p> <p>6.3 URI における制限事項</p> <p>登録者または公開連絡窓口などの申請情報として登録される URI のホスト名部分には、次にあげるラベルを含んではならない。</p> <p>(1) “*--” (“*”は ASCII ラベルに使用可能な任意の 1 文字) で始まるラベル</p> <p>6.4 署名鍵における制限事項</p> <p>汎用 JP ドメイン名に設定された署名鍵がセキュリティやその他の問題を引き起こす可能性があるとして当社が判断した場合、当社は署名鍵を登録原簿から抹消することができる。</p> <p>7. 予約ドメイン名</p> <p>当社は、特定の汎用 JP ドメイン名を、すべての組織が登録できないドメイン名として、ないしは特定の組織を除いて登録できないドメイン名として指定する場合があります。これを予約ドメイン名と呼ぶ。この指定および指定解除、その他の詳細は指定の都度定める。</p>	

変更前	変更後	備考
<p>=====</p> <p>変更履歴（2002年4月1日版→2003年3月20日版への変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際化ドメイン名関連の RFC 発行に伴う改訂 ・ネームサーバホスト名に日本語 JP ドメイン名を利用可能とするための改訂 <p>変更履歴（2003年3月20日版→2003年7月10日版への変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JIS規格・RFC・その他の規格書にあわせた用語および表現の変更 ・JIS X 0208 規格のリファレンスを JIS X 0208-1990 から最新の JIS 規格である JIS X 0208:1997 に更新。これによる字形の入れ替え等、Unicode とのマッピングによる影響はない。 ・属性型・地域型 JP ドメイン名技術細則の用語・表現との整合 ・日本語ラベルとして登録可能な文字の追加 「ㄥ」「全」「ㄨ」「〇(漢数字ゼロ)」 ・ラベルを正規化後の文字列に限定し、定義をより厳密化。これにより本技術細則でのラベルの定義は、RFC3490 における定義とは異なる ・正規化の手順をより明確に記述 ・日本語ドメイン名のエンコーディング方式決定に伴い、制限事項からサフィックスに関連する次のものを削除 "-**" ("*"は任意の1文字)で終わる文字列 "-8q9" で終わる文字列 ・付録の番号を技術細則中の参照順に修正 ・ABNF による汎用 JP ドメイン名の定義を付録へ新規に追加 <p>変更履歴（2003年7月10日版→2004年10月18日版への変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者または公開連絡窓口などの申請情報のうち、URI に日本語ラベルを利用可能とするための改訂 <p>変更履歴（2004年10月18日版→2005年8月30日版への変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語ラベルとして登録可能な文字から、「ㄥ」(区点:1-23、UCS:3003)を削除 <p>変更履歴（2005年8月30日版→2006年1月10日版への変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「5.1 ネームサーバホスト名における制限事項」にネームサーバホスト名のトップレベルドメイン名が"JP"の場合の制限事項を追加 <p>変更履歴（2006年1月10日版→2010年8月15日版への変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語ラベルのエンコーディング手順のリファレンスを RFC3490 から RFC5890 	<p>=====</p> <p>変更履歴（2002年4月1日版→2003年3月20日版への変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際化ドメイン名関連の RFC 発行に伴う改訂 ・ネームサーバホスト名に日本語 JP ドメイン名を利用可能とするための改訂 <p>変更履歴（2003年3月20日版→2003年7月10日版への変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JIS規格・RFC・その他の規格書にあわせた用語および表現の変更 ・JIS X 0208 規格のリファレンスを JIS X 0208-1990 から最新の JIS 規格である JIS X 0208:1997 に更新。これによる字形の入れ替え等、Unicode とのマッピングによる影響はない。 ・属性型・地域型 JP ドメイン名技術細則の用語・表現との整合 ・日本語ラベルとして登録可能な文字の追加 「ㄥ」「全」「ㄨ」「〇(漢数字ゼロ)」 ・ラベルを正規化後の文字列に限定し、定義をより厳密化。これにより本技術細則でのラベルの定義は、RFC3490 における定義とは異なる ・正規化の手順をより明確に記述 ・日本語ドメイン名のエンコーディング方式決定に伴い、制限事項からサフィックスに関連する次のものを削除 "-**" ("*"は任意の1文字)で終わる文字列 "-8q9" で終わる文字列 ・付録の番号を技術細則中の参照順に修正 ・ABNF による汎用 JP ドメイン名の定義を付録へ新規に追加 <p>変更履歴（2003年7月10日版→2004年10月18日版への変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者または公開連絡窓口などの申請情報のうち、URI に日本語ラベルを利用可能とするための改訂 <p>変更履歴（2004年10月18日版→2005年8月30日版への変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語ラベルとして登録可能な文字から、「ㄥ」(区点:1-23、UCS:3003)を削除 <p>変更履歴（2005年8月30日版→2006年1月10日版への変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「5.1 ネームサーバホスト名における制限事項」にネームサーバホスト名のトップレベルドメイン名が"JP"の場合の制限事項を追加 <p>変更履歴（2006年1月10日版→2010年8月15日版への変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語ラベルのエンコーディング手順のリファレンスを RFC3490 から RFC5890 	

変更前	変更後	備考
<p>および RFC5891 に更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語ラベルの正規化エンコーディング手順のリファレンスを RFC3491 から本技術細則「3. 申請文字列の正規化」に規定する方式に更新 <p>変更履歴（2010年8月15日版→2011年1月16日版への変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> 汎用 JP ドメイン名に設定可能な署名鍵の形式を定義 署名鍵における制限事項を追加 	<p>および RFC5891 に更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語ラベルの正規化エンコーディング手順のリファレンスを RFC3491 から本技術細則「3. 申請文字列の正規化」に規定する方式に更新 <p>変更履歴（2010年8月15日版→2011年1月16日版への変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> 汎用 JP ドメイン名に設定可能な署名鍵の形式を定義 署名鍵における制限事項を追加 <p>変更履歴（2011年1月16日版→2012年7月16日版への変更）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「6.1 ネームサーバホスト名における制限事項」の対象に都道府県型 JP ドメイン名を追加 	<p>変更履歴を記載</p>